

【教育目標 夢中になる とともに創る】



きらきら



新潟市立沼垂幼稚園
園だより
令和8年6月23日発行

沼垂幼稚園112年目 大切にする2つの「一」と、1つの「二」 ★一人一人 ★一緒 ★無二

その子らしい探究を支え、深めたりつなげたりする

園長 関根 秀也

太陽の光がまぶしく、気温が高い日が増えてきました。どの学年も砂場で遊びを楽しむ様子が見られます。裸足になって砂の感触を味わう子、手やスコップで穴を掘る子、砂で大きな山を作る子、バケツの中の水を砂場に流す子…担任は、様々な方法で砂や水に関わりながら楽しんでいる子どもの様子を見守り、必要に応じて援助をします。

A 児は、手やスプーンで砂をすくい、すくった砂を顔の高さまで上げて、下に落としたり、横に飛ばしたりしています。「うん」と言ったり、首を振ったりして、また同じことを繰り返しています。砂がさらさらする、落ちた砂がいろいろな形になる、といった様子をよく見て、砂の動きや変化を確かめて楽しんでいるようです。

B 児は、スコップで砂に穴を掘り、掘った穴にじょうろで何度も水を入れていきます。たまった水に素足を入れて楽しんでいます。「チョコ味の温泉だ」と言って砂で濁った水を足湯のようにしています。足をバタバタするとチョコ味が濃くなる（水が濁る・砂が削れる）！？とのことですが、でも、しばらくすると、チョコ味の水がなくなり「また水を持ってこなきゃ」「けっこう大変だ」と、じょうろを持って汗を流しながら、きらきら池や近くのたらいと砂場を往復しています。

C 児は、スコップで砂を掘り、細長い溝やトンネルを作っています。そこにじょうろやバケツで水を流しています。じょうろで水を流した後、さらにバケツで勢いよく水を流します。すると、隣で友達が掘っていた穴と細長い溝がつながります。C 児と隣の友達は目と目を合わせて「いいね!」と言って、どんどん水を流していきます。しかし、水の勢いでトンネルが崩れてしまいます。「あっ、くそ〜」「砂が崩れる」「水はすごい」と言いながら、また、砂を掘り始めます。



沼垂幼稚園では、A 児、B 児、C 児の姿は、やりたいことを見つけて楽しんでいる中で、砂や水に関わりながら、「手ごたえ」や「問い」を感じ、小さな課題（砂や水の扱い方）を解決したり、新たなやりたいこと（もっと砂や水と関わること）に向かっていったりする幼児期の「その子らしい探求の姿」と捉えます。そして、C 児の友達と目と目を合わせる

しぐさ、「砂が崩れる」「水はすごい」という言葉、また砂を掘り始めるという姿は、「その子らしい探究が深まったりつながったりしている様子」の一端と考えます。

これらの子どもの姿を支えたのは、担任が砂場で遊んでいる子どもと同じ目線で行動し、何に興味を示しているのか注意深く見つめ、思いや考えを深く理解しようとしたことです。その子どもが興味をもったことに心を寄せ「おもしろいね」「へえ～なるほど」と共感し、周りの子どもに楽しさを広めます。そして、子どもたちの必要感に応じながら、さりげなくスコップやじょうろなどを子どもの視界に入るところに置いておきます。これらの道具は、順番に使ったり一緒に使ったりして、協働的な活動が生まれるように少し足りなくらいの量に意図的に調節してあります。このような環境から「どうしてだろう」「何とかしたい」という子どもの探究心が高まります。ただの砂場遊びで終わるのではなく、遊びが連続する中で、子どもの発見や気づき、協働的な姿勢につながるように援助や環境構成を工夫し、砂や水との関わりから学びの芽が育まれるようにしています。

この子どもたちの遊び（学び）は、今は無自覚でも、小学校高学年の理科で学ぶ「流れる水のはたらき」→「地面を削る＜浸食＞」「土や石を運ぶ＜運搬＞」「土や石を積もらせる＜堆積＞」につながっていく貴重な経験と考えます。系統的な学びへと発展する基礎となる学びが、自発的な遊びを大切にする沼垂幼稚園にあふれています。

今月の「きらきらな笑顔」



いいものができたよ！



坂道の研究に夢中です



生き物がいっぱいいるね！



色水の研究…おいしい色大発見！